

ていばーく所蔵資料紹介

広重の錦絵 東海道五十三次（保永堂版）



江戸時代、東海道は通信・交通の重要な幹線であり、庶民にとっては旅への夢や憧れを誘う街道でもありました。

天保前期（1830年代）この東海道の美しい風景を描いて、爆発的な人気を獲得したのが、初代歌川広重の錦絵「東海道五十三次（保永堂版）」でした。

この錦絵には飛脚や街道の宿場の様子などが詳細に描かれているため、美術作品としての価値だけでなく江戸時代の通信・交通の資料としても貴重なものであり、当館はこのシリーズ全揃55枚を所蔵しています。

（掲載作品は、「東海道五拾三之内 蒲原 夜之雪」 蒲原宿（現在の静岡県庵原郡蒲原町）入り口付近の夜の雪景色を描く。シリーズ中でも傑作として評価の高い作品である。）